

# 鳴門渦潮 初優勝

## 女子は生光学園3年連続

**柔道**  
 全国高校選手権県予選  
 柔道の全国高校選手権  
 徳島県予選を兼ねた第43  
 回県高校選手権最終日は  
 22日、徳島市の県立中央  
 武道館で団体戦が行われ  
 に出場する。

### 柔道

た。6校が出場した男子  
 は鳴門渦潮が初優勝し、  
 3校で争った女子は生光  
 学園が3年連続5度目の  
 栄冠をつかんだ。両校は  
 全国選手権(来年3月  
 19、20日・日本武道館)



男子決勝・阿波対鳴門渦潮 積極的に技を仕掛けて一本勝ちした鳴門渦潮の岡田(左)と県立中央武道館

### 実戦練習実り雪辱果たす 鳴門渦潮

初優勝を決めた鳴門渦潮の選手たちの頬を涙が伝った。敗れ続けてきた阿波にようやく雪辱を果たし、会場を出ると抱き合っていた。

1勝1敗で迎えた副将戦。岡田は「受け身になるとチームのいい雰囲気壊してしまう。先に組んで技を仕掛け続けた」。一度は寝技を外されたものの、すぐさま仕掛けて成功。崩れ上四方固めで一本勝ちした。残る相手は大将1人となり、岡田は「疲れはあったが、必ず自分で決める」と寝技を掛け続けて引き分けに持ち込み、勝利を手繰り寄せた。

先行を許さなかったことも見逃せない。先鋒(せんほう)の妹尾は、対戦相手に個人戦で敗れていたが「前に出て先に組ませないようにした」と粘って引き分けると、「足技を仕掛け続けた」と言う次鋒の福本が払い腰で一本勝ち。相手の中堅には屈したが、続く田淵が引き分け、阿波に主導権を譲らなかつた。

10月中旬にあった県高校新人選手権決勝で阿波に敗れて以降、今大会の勝ち抜き戦を想定した実戦練習を積んできたことが実った。大将の久保は「もつと体力をつけて、全国大会では最後まで諦めずに戦い抜いて勝ちたい」。鳴門渦潮柔道の新たな歴史づくりに向け、一層の精進を誓った。

(木村恭明)

福本 合わせ	田淵 引き分け	岡田 崩れ上	阿波 引き分け	鳴門渦潮 1人残り
佐藤 藤	佐藤 藤	永井 井	引分	徳島科
福本 合わせ	田淵 引き分け	岡田 崩れ上	阿波 引き分け	徳島科
佐藤 藤	佐藤 藤	永井 井	引分	徳島科

### 決勝オール一本

○女子決勝は、生光学園の出場3選手が全て一本勝ちを収め、実力の高さを見せつけた。

序盤から主導権を握った先鋒金山、「先に攻め続けた」と言う次鋒佐藤はともに横四方固めで勝利した。1年生コンビの2人は「部員7人が団体戦の出場枠を目指し、普段から激しく争い合っているのが力につながっている」と口をそろえた。

大会前には、引退した8人の3年生が練習相手を務めてくれた。前回の全国選手権は新型コロナウイルスの影響で中止になっただけに、大将で2年の溝淵主将「写真Ⅱは「全国舞台を踏めなかつた先輩たちの分まで一つでも多く勝ちたい」と決意を込めた。

▼徳島県高校柔道選手権の記録を訂正 県高体連柔道専門部は22日、県高校選手権男子個人81kg級1回戦の「福本(鳴門渦潮)小外刈り 明石(阿波)小外刈り 福本(鳴門渦潮)」に、準決勝の「永井(阿波)内股 福本」を「永井(阿波)内股 明石」に訂正した。



前回の全国選手権は新型コロナウイルスの影響で中止になっただけに、大将で2年の溝淵主将「写真Ⅱは「全国舞台を踏めなかつた先輩たちの分まで一つでも多く勝ちたい」と決意を込めた。